

Prof. T. Yamazaki and Dr. H. Kanai of Faculty of Science, University of Tokyo, and Prof. S. Kitamura and Dr. K. Iwatsuki of Faculty of Science, Kyoto University for their kindness of giving chances to inspect the herbarium specimens and the literatures.

References

- 1) T. Namba and T. Minami in Journ. Jap. Bot. 43: 234 (1968). 2) C.B. Clarke, Gentianaceae in J.D. Hooker, Fl. Brit. Ind. 4: 108-119 (1885). 3) C.B. Clarke in Journ. Linn. Soc. Bot. 14: 438 (1875); Gentianaceae in J.D. Hooker, Fl. Brit. Ind. 4: 115 (1885). 4) J.R. Sealy in Curtis's Bot. Mag. 170: t. 230 (1954).

* * * *

“Khaunjun”は、チベット医学で鎮咳薬として用いられてきた全草類生薬である。この組織学的特徴を記し、さらに植物標本および文献記載と比較検討した結果、“Khaunjun”的基源植物は、*Gentiana amoena* Clarke (syn. *G. emodi* Marq.) であると確定し得た。

ヨーロッパにおいても、インドや中国医学においても、リンドウ属は、その地下部を苦味健胃薬、解熱薬、消炎薬に用いられるのが一般的な薬物用法である。チベットの民族医学において、小型のリンドウ属植物の全草を鎮咳薬として用いているのは、甚だ特異的な用法であり、“Khaunjun”は、チベット医学で独自に発達した薬物の一つであろう。チベットでは、このほか Sect. Pneumonanthe や Sect. Kurroo に属する小型のリンドウ属植物の全草も同様の薬効を期待して用いられている。それゆえ、このような比較的小型のリンドウ属植物は、チベットおよびその周辺地域で広く民間的にも薬用にされていると考えられる。

○新帰化植物ヒメギンネム（山崎 敬） Takasi YAMAZAKI: A new naturalized plant, *Desmanthus virgatus*.

1963年琉球、首里の林業試験場の構内で、白い花のさくギンネムを貧弱にしたような帰化植物を採集した。調べたところ、南アメリカ原産で東南アジアにも広く野生化している *Desmanthus virgatus* (L.) Willd. であることがわかった。昨年小笠原の父島で、この植物がギンネムの林の縁に群生しているのを見つけた。戦前には知られていなかったものである。*Desmanthus* はアメリカとマダガスカルに40種ほど知られる属である。日本にはもう一種帰化していて、多和田真淳氏が琉球嘉手納で1965年採集し、大橋広好氏によって *Desmanthus brachylobus* Bentham と同定されている。

(東京大学理学部植物学教室)